

自然賛歌

極楽寺山の自然観察

妹尾 治人

平成十年四月十九日国立公園極楽寺山で、日本自然保護協会広島県自然観察指導員連絡会主催の自然観察会が行われた。

この日の観察会は、JR廿日市駅より表参道三十七丁を歩いて登るハードな計画にもかかわらず、予想を越える五十九名が参加した。観察会は平良登山口から始まる。今が見頃の植物に次々と番号札がつけられ（植物名は登山後に発表される）、頂上までに結局二十一枚の札がつけられた。参加者は、さて何だろうと熱心に観察しているうちに、到着時刻はとつづくに過ぎ、憩いの森の蛇の池広場に到着したのは一時を過ぎていた。



昼食後、インスタクターより本日の観察会のテーマであるカンアオイとツツジの仲間について専門的な説明があった。カンアオイは、ギフ蝶の食草であること。フタバアオイは、徳川家の紋章で京都の葵祭に使用されること。ウスバサイシンの根は、屠蘇の中に入れている七種のうちの一つであること。ツツジ科の植物は実に多く、二十三属九十一種があること。極楽寺山に植物・動物の多い理由等について説明があった。

続いて、道中で見て来た二十一種の植物名とそれにまつわる説明があった。

①フジ ②コバノミツバツツジ ③ダイセンミツバツツジ ④コバノガマズミ ⑤クサイチゴ ⑥ミツバアケビ ⑦スノキ ⑧タラノキ ⑨リョーブ ⑩ネジキ ⑪ギンリョウソウ ⑫ツルグミ ⑬コシアブラ ⑭ニワトコ ⑮フデリンドウ ⑯イチヤクソウ ⑰サンヨウアオイとカンアオイ ⑱ツルキシミ ⑲ウスギヨウラク ⑳シロモジ ㉑ウワミズザクラ（説明は省略）

終りに、『観音山の杉』の民話が朗読されたが、その話のなかで、大杉が切り倒されるのを防ごうとしたカズラ達、仲間外れにされたヘクソカズラ、大杉をしのいで付けられた大杉・仲伏・木末の地名など、この民話の作者は自然をこよなく愛した人物であることに感動した。

蛇の池でのレクチュアが終り、自然探勝路を歩き、極楽寺境内の巨樹、日本百選のアカガシ・ムササビの巣穴のある千年杉、コウヤマキ・モミ・ツガを観察し、山門まで降りたところで解散した。

この日の観察会では、美しい自然林を見ると共に大変残念な現象も目についた。それは、道路が整備され広い駐車場が出来たことにより、多くの人が極楽寺山を訪れるようになつたが、その為車からのゴミのポイ捨てと、心ない人による植物の持ち帰りがあるらしい。人間は自然の恵みで生きていることを自覚し、自然を大事に守って行きたいものである。

なお、この日の観察会にはホームテレビの取材があり、四月二十五日に放映された。ムササビの飛び交う森をいつまでも

（自然観察指導員）



極楽寺山夫婦の道